



# 高 三本野々原

東京三高会だより

第43号

令和8年6月1日発行

発行：東京三高会 青森県立三本木高等学校同窓会東京支部 発行責任者 川原 淳



平成22年4月、文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定(～平成27年度)英語での研究発表の様子。



中高一貫校となり、高校生から中学生へ。「森林環境学習の目的」をテーマとしたレクチャーの様子。



文武両道、部活動も活発に行われている。



令和8年4月、創立100周年の節目に新制服を導入。組み合わせも自由に、自分らしい装いへ。

## おめでとう！ 母校、三本木高等学校は 創立100周年を迎えました。



大正15年5月、三本木町立三本木実科高等女学校として開校。昭和23年4月、青森県立三本木女子高等学校として新発足。翌昭和24年4月、青森県立三本木高等学校と改称し、男女共学を実施。



昭和47年12月、現在地に新校舎が竣工。昭和50年11月、創立50周年記念式典を挙げる。平成18年6月、青森県立三本木高等学校附属中学校を設置し、平成19年4月より施行。幾多の歩みと成果を重ねながら、現在へと続く。



青森県立三本木高等学校・附属中学校  
校長 小倉 民生

「よき志」を次代の光に  
創立100周年、誠におめでとうございます。記念すべき節目を迎え、本校の歴史を支えてくださった全ての皆様にご心より感謝申し上げます。大正十五年の創立以来、本校は幾多の困難を乗り越え、地域と共に歩んできました。この二世紀、学び舎で育まれたのは、いつの時代も未来をより良くしようとする「よき志」に他なりません。  
スローガン「よき志 継がでやば」百年分の志が未来を拓く。本校生徒が考え、本校の歴史を引用したこのスローガンには、先人が積み上げた100年分の情熱を絶やすことなく、次代へと繋いでいく強い決意が込められています。変化の激しい現代において、この志こそが、新たな未来を拓く羅針盤となることと信じています。  
2026年が、これまでの100周年を振り返り、次の世紀へ向けて歩みを進め、共に確かめ合う、そんな意義深い1年になることを願っています。

田中優子 (S58年卒)  
公共施設ビルの総合案内をしています。「出る場所」のある高齢者はとても生き生きしています。私もそういう人になりたいと思っています。

新屋敷道保 (S38年卒) 旧姓 均  
堰野端君と同じクラス。土地が手に入り農業に取り組んでいます。その他にもいろいろ実施しています。毎日がハッピー！

佐々木良一 (S42年卒)  
一昨年の8月頃から会社を辞職して自由に生きています。(指の付け根の関節が使い過ぎと加齢の為か軟骨がすり減っています)

滝沢多太志 (S43年卒)  
今年は念願かなって初参加の予定です。同期に会えるのも楽しみにしています。

ご寄付  
ありがとうございます。  
佐々木文雄さん(顧問・S36卒)  
佐々木 裕さん(S38卒)  
馬場洋子さん(S38卒)  
向中野秀彦さん(S49卒)  
坪 信孝さん(S52卒)

東京三高会  
公式ウェブサイト公開中

Facebook、Instagramで「プラタナスの広場」を運用しています。三高の象徴だったプラタナスの木を知る同窓生の交流の場として閲覧、ご参加をぜひお待ちしております。

東京三高会役員

顧問	卒業	理事	卒業
佐藤 中	(S32)	鈴木 朋子	(S38)
佐々木 文雄	(S36)	馬場 洋子	(S38)
		瀬戸口 玲子	(S41)
相談役		辻 まり子	(S47)
堰野端 富志男	(S38)	坂田 俊英	(S55)
会長		事務局・会計	
川原 淳	(S55)	永井 俊子	(S56)
副会長		広報	
富田 俊一	(S43)	田中 奈穂美	(S56)
		監事	
		向中野 秀彦	(S49)
		野坂 和夫	(H5)

みんなの広場  
皆様からのお便りをお待ちしています。同期生や同窓生に、元気で暮らしている様子などを事務局までお寄せください。郵送・FAX・メール、どの方法でも！

川崎節子 (S41年卒)  
昨年のブラヤマダでは大変お世話になりました。渋沢栄一と十和田の繋がりが分かり楽しかったです。「古牧温泉」に旧渋沢邸があったとか。今年もブラヤマダに参加したいです。

望月福子 (S42年卒)  
同郷や同期の方々はやる気満々で、今や70代は仕事をする年代ですね。今世界で最もラグジュアリーな「寄港地ツアー」トップの豪華クルーズ船が、酸ヶ湯温泉を訪れるために寄港しているとか、カーネギーホールに出演した本校出身のミュージシャン・桜田マコさんの情報などを知ると、大きく変化する様子にビックリです。私は姉の介護や娘の回復に、もうしばらく時間を取られ自分のための時間は不自由ですが、気持ちは充実して過ごしています。

三浦景子 (S38年卒)  
三高会の皆様こんにちは。私達、幼稚園から高校まで全て三本木育ち、今から六十四年前、夜行列車で上京した仲間です。四十代後半から旅行会などを開催しています。昨年春、長崎県の大村湾沿いに住む同級生を訪問。秋には修学旅行思い出の地 熱海へ。花火大会当日だったので、8階窓の真ん前に浮かぶ大輪の花には感動しました。



### 年会費納入のお願い

令和8年度会費納入をお願い申し上げます  
懇親会にご参加の方は、懇親会費5,000円と年会費2,000円を合わせた7,000円を、下記の口座へお振込みいただくか、当日会場受付にてお支払いください。不参加の方は、年会費2,000円のお振込みにご協力をお願いいたします。

なお、ご寄付につきましては、会としてありがたく拝受させていただきます。今後とも宜しくお願いいたします。

振込先：三菱UFJ銀行  
仙川支店(普)0770836  
東京三高会 永井俊子

※恐縮ですが、振り込みの際には手数料のご負担をお願いします。



事務局より  
令和7年度より総会は「紙面総会」形式となりました。総会資料(会計報告・活動報告・予算案・活動案)は懇親会ご案内に同封しております。質問等ありましたら事務局までメールかFAXでお願いいたします。※電話での質問はご遠慮ください。  
tokyo-sankoukai@outlook.jp  
FAX:03-5313-1356

診療放射線技師  
株式会社エヌシーエル  
Nihon Clinical Laboratory  
代表取締役 佐々木 貞雄  
(十和田工業高校S42年卒)  
〒321-0933 栃木県宇都宮市薬瀬町2343  
TEL:028-637-3466 FAX:028-637-3467  
qq3244a9k@axel.ocn.ne.jp



公認登録衛生検査所  
サンコウメディカルグループ  
株式会社メディカルラボ  
代表 佐々木 文雄  
(三高S36年卒)  
〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本2-13-18  
TEL:090-3514-1784 FAX:042-779-7624  
medical.fmosasa@nifty.com  
http://www.medicalabo.com

やすとう かたもり  
～新宿は広沢安任と松平容保の夢の跡～

会津藩(後に斗南藩)重臣広沢安任は、会津藩最後の藩主松平容保の下で新選組を指揮しました。安任は戊辰戦争後に投獄から解放された後、三沢村で日本初の近代牧場を開き、青森県を成立させ、明治天皇の東北巡幸に三本木村で謁見しました。十和田との関係では、三本木産馬組合設立に尽力し、甥の安宅を渋沢農場の初代場長にしました。最後は新宿に転居し、牧場経営を始めましたが、インフルエンザで亡くなりました。

そんな容保と安任2人の新宿ゆかりの地を、1月17日、三高会の20名が巡りました。新宿駅西口から歴史博物館まで、9キロ、3時間の道のりでした。その後、三高OG茂木真奈美さんが女将の「りんごの花」で乾杯。坂好きの皆で盃を傾け、お互いの健脚を褒め合い、親睦を深めました。お疲れ様でした!(文・絵 山田安秀 S57年卒)

第5回ブラヤマダは、2027年1月頃を予定



7 高須藩邸跡地 1836年12月 容保はここで生まれ育った。容保は京都の警護を任せられるまで優雅な生活を送っていた

6 1893(明治26年)12月に薨去した容保は正受院で葬られた

5 広沢安任の牛乳販売所(アンテナショップ)は今の新宿駅東側にあった

4 広沢牧場があったと思われる所(2) 高須藩松平摂津守拝領地のあたり

3 成子天神社 成子坂

2 都庁、第一本庁舎の45階南展望室からかつての広沢牧場に想いを馳せました

1 広沢安任の居宅兼牧場があったと思われる所(1)(今の西新宿一丁目) 1887年安任は三沢から転居。しかし4年後ここで亡くなった。同地は淀橋浄水場へ

山田さんと当日配布資料!

フォーラムの内容はQRコードよりご覧いただけます

3年前のブラヤマダ(大町桂月ゆかりの地巡り)から発展した「十和田湖の未来を語る東京フォーラム～大町桂月と名勝価値の再発見～」が2025年11月30日東京都内にて開催されました。東京三高会として、寄付、川原会長による挨拶、田中(奈)役員による映像などで関わらせていただきましたことを報告させていただきます。

三本木高等学校 校歌と佐藤春夫  
我が校の校歌は、日本を代表する詩人・佐藤春夫によって作詞された、本校の歴史と精神を今に伝える大切な文化遺産である。  
戦後の学制改革により昭和二十二年に男女共学の新制高等学校となり、その節目に新たな校歌が制定されることとなった。当時の校長・佐藤勇介は、母校早稲田大学と交流があり、大幸治と親交のあった佐藤春夫を訪ね、校歌の作詞を依頼した。学校の沿革や教育方針、三本木の自然や風土について丁寧に説明し、その誠意ある姿勢は、校歌作りに慎重であった佐藤春夫の心を動かした。佐藤春夫は随筆集「日本の風景」の中で、三本木高等学校の校歌制定を印象深い出来事として記している。  
校歌は耳で聞き、心に響く言葉でなければならず、簡潔でありながら精神性を備えた詩であるべきだと述べている。校歌発表に際し佐藤春夫は三本木を訪れ、奥入瀬渓流や十和田湖などを巡った。この訪問は、後年の文学作品や、さらに高村光太郎による「乙女の像」建立へとつながる文化的広がりを生む契機ともなった。  
創立一〇〇周年を迎える今、本校校歌は単なる学校の歌にとどまらず、三本木高等学校が歩んできた歴史と、地域と共に育まれてきた精神文化を象徴するものとして次の一〇〇年へと大切に受け継いでいきたい。

《祝・母校三高創立100周年!》  
東京三高会は創設48年目を迎えます

令和7年7月5日(土)、ダイニングカフェ エスペリアにて第47回東京三高会懇親会を開催。ご来賓、会員、総勢41名の皆様にご参加いただきました。冒頭、川原会長から「限られた時間の中で、年に一度の再会をゆっくり楽しんでいただきたいと考え、総会資料は事前送付のうえ、「紙面総会」形式といたく存じます。承認くださいますようお願いいたします。」とお話があり、出席の皆様から拍手で承認をいただきました。この度、令和5年まで長くご尽力下さった佐々木文雄前会長より、多額の寄付を賜りました。今後の活動に大切にさせていただきます。



第47回 懇親会 レポート

第48回 懇親会開催のお知らせ  
多くの皆様のご参加をお待ちしております。  
日時: 令和8年7月4日(土曜日)  
受付: 15:30~  
懇親会: 16:00~18:00  
会場: ダイニングカフェ エスペリア 千代田区神田神保町2-4 太平電業ビルB1F  
TEL. 03-3234-2588  
会費: 7,000円(年会費含む)

創立一〇〇周年に寄せて  
同窓会東京支部 東京三高会  
会長 川原 淳 (S55年卒)  
今年、三本木高等学校が創立一〇〇周年を迎える節目の年です。私は1977年から79年まで在学し、1980年に卒業しました。振り返れば、四十六年の歳月が流れました。当時の校舎は今も変わらずたたずみ、校門近くの大きなプラタナスは、今も三高のシンボルです。帰省の折に校舎を目にすると、高校時代の記憶がよみがえります。在学中はマンガ研究部に所属し、部員で徹夜して文化祭の入場アーチを制作したことが強く印象に残っています。正直に申せば、勉学に励む模範的な生徒ではありませんでしたが、友人と過ごした日々や自由な校風の中で得た経験は、今の私の礎となっています。一〇〇年の歴史は幾多の歩みの積み重ねです。次の一〇〇年に向け、母校のさらなる発展を願っております。東京三高会もまた、母校への思いをつなぎ、会員相互の絆を深める場として、歩みを重ねてまいります。

